

第9章 良好な景観形成の整備方針

1. 沖縄の気候・風土(蒸暑)に適した伝統的な建築形態や浦添の歴史の尊重
2. 美しい眺望を最大限活かしたまち並み景観

第9章 良好な景観形成の整備方針

本地区の景観形成にあたっては、沖縄の気候・風土に適した建築形態を推進することでエネルギー消費の少ない環境先端都市にふさわしい景観づくりを目指します。また、世界中から多くの人・企業・投資を呼び込む際の地区の魅力となるよう、歴史を活かした独自性のある街並みや西海岸の海や夕日を望む立地特性・地形を最大限活かした街並みの形成を図ります。

1. 沖縄の気候・風土(蒸暑)に適した伝統的な建築形態や浦添の歴史の尊重

【特徴】

<気候・風土>

- 沖縄県は黒潮が流れる暖かい海に囲まれており、海洋の影響を強く受けるため、気候区分は亜熱帯海洋性気候に属し、高温・多湿で年間を通して温暖な気候です。 出典：沖縄気象台 HP
- 夏は南風（カーチーベ：夏至南風）が吹いて以降、暖かく湿った空気が流れ込みやすいため、晴れて蒸し暑い日が多くなりますが、海から吹く風のため夏季でも猛暑日（日最高気温が35℃以上）となることはほとんどありません。一方、冬は東シナ海から沖縄付近にかけては北または北東からの強い季節風が吹き、シベリアからの寒気が流れ込みます。 出典：沖縄気象台 HP
- 年平均で7～8回台風が近づきますが、その多くは7～9月に集中しており、長時間にわたって風雨がふきあれ、大きな被害が出ることもあります。 出典：沖縄県 HP

<伝統的な建築形態・歴史>

- 沖縄では、17～18世紀にかけて蔡温を中心に風水の考え方を取り入れ、家の周りをフクギという大きな木や石垣で囲って台風に備えたり、集落の北側に「クサテ森」と呼ばれる防風林を配置する等の気候・風土に適した伝統的建築が行われてきました。
- 浦添は歴史的に、12世紀初頭から200年余りにわたり琉球王国の歴史の舞台となりました。 出典：浦添大公園 HP
- 建築様式についても、浦添グスク周辺の発掘調査から高麗瓦が出土する等この時代独自の建築様式があったとされています。
- 「浦添市緑の基本計画【改定版】ティーダヌファみどり計画（令和2年5月）」において、「浦添の風景をとどめるみどりをまもりそだてる」として、原風景を感じさせる斜面地や水辺のみどりの保全・活用が推進されています。
- 本地区内及び周辺では、本市で唯一残る自然海岸や、地域の景観的・文化的象徴にもなっているカーミージー、段丘崖の斜面緑地、地区を囲むように流れるシリン川・小湾川等、景観資源となる自然環境が豊富に存在しています。また、石切場跡や嘉門貝塚等の貴重な埋蔵文化財や、広く点在する遺跡・古墳墓群等、歴史・文化的資源も豊富です。

【方向性】

- 年間を通じて快適な環境を形成し冷暖房に係るエネルギー消費の抑制を目指し、街中に夏の南風を取り込み冬の北・北東からの風を防ぐよう緑や建物の配置や海や周辺河川等の水の活用を推進します。公有地と民有地を一体的に活用し、北側に冬の北風を防ぐ「クサテ森」のような役割を果たすみどりの保全や地区ごとに建物を台風等の風から防ぐ「抱護林」といった伝統的な沖縄の建築形態を尊重した気候・風土に適応する緑の景観づくりを推進します。
- 配置する緑は、沖縄の特有の植物を中心に各場所の性質に適した沖縄らしい植栽計画を推進するとともに、官民一体となって特定外来種等の駆除を始め持続的に美しさを維持する仕組みの構築を図ります。
- 浦添グスクから流れる小湾川とシリン川に囲まれた地形を活かし、夏の暑さを和らげる水を身近に感じる景観づくりを推進します。
- 建物については、こうした緑や沖縄の海と調和する色彩のコントロールを行う等による美しい街並みの形成を目指します。
- 街並みや建物のデザイン等において、浦添の歴史や文化を活かした個性ある景観づくりを目指します。

2. 美しい眺望を最大限活かしたまち並み景観

【特徴】

- 本地区は、海側の低地部（標高0～10m）と国道58号側の高台部（標高20～30m）、これらに挟まれた段丘崖（標高10～29m）といった3つの地形に分類されます。
- 地区の中央部や北側には標高30～35mの小さなビスタが存在し、地区内を展望する最も高い場所となっています。
- こうした地形は、海への眺望に加え、本地区の景観を特徴づけています。
- 那覇港港湾計画において、本地区に隣接する浦添ふ頭地区に大型クルーズ船の受入れやマリナーナの整備が予定されており、美しい海側からの景観形成が求められます。

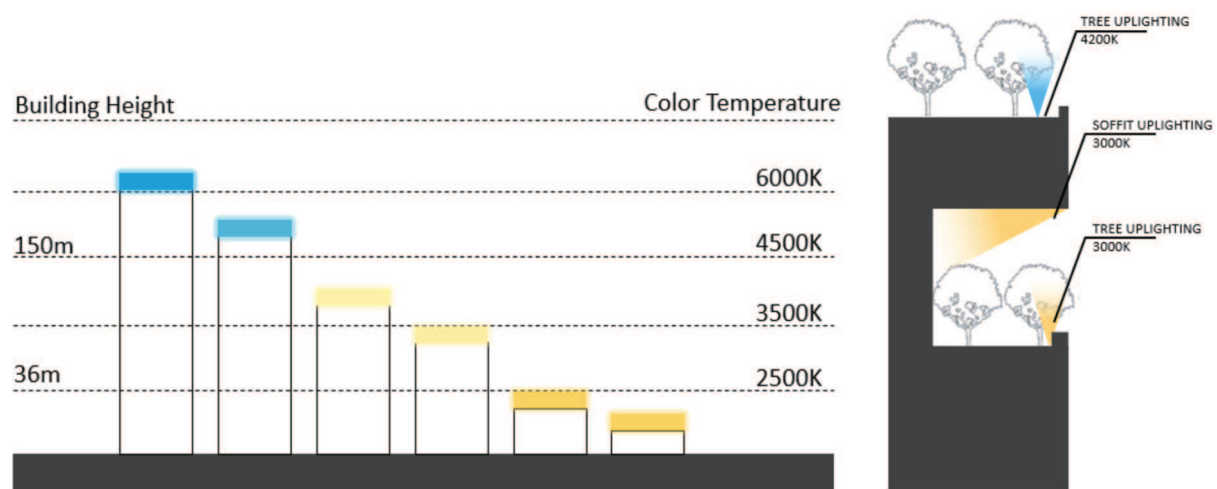
【方向性】

- 西海岸の海と夕日は本地区の重要な景観資源であることから、地区内の多くの場所から見えるよう建物の高さの抑制を図ります。特に高台部の縁辺部に配置する夕日を望む公園道路や夕日を望む展望公園から西海岸の海と夕日の眺望を阻害しないよう建物の高さを抑制します。
- 那覇港港湾計画で計画される海路からの人のアクセスを想定し、海側から美しく特徴あるまち並み（シンボリックな景観）の形成を図ります。こうした景観形成に向けては、低層建物と高層建物のスカイラインの連続性や色彩のデザイン等に関するガイドラインの策定を行います。
- 照明や街灯、ネオンサインや広告・看板等のデザインに統一感を持たせ、夜も美しい夜景となるような夜間の照明や電飾等に対する規制・誘導を推進します。（夜景ガイドラインの策定を検討します。）

(参考) シンガポールにおける夜景ガイドライン

シンガポールでは、ウォーターフロントにおいて夜間照明による夜景が都市の景観づくりの重要な資源の1つであると考え、夜景ガイドライン(Night Lighting Master Plan)を策定しています。

建物の高い場所の光は寒色（青）系、低い場所は暖色（オレンジ）系の照明とすることでグラデーションをつくり海の水面に映る光が美しい海側からの都市景観を形成しています。また、建物の内側の照明については光源から屋内に向くこととし外から見たときに明るすぎない夜景づくりを目指しています。



出典：REVISION TO THE NIGHT LIGHTING GUIDELINES FOR DEVELOPMENTS IN THE CENTRAL BUSINESS DISTRICT (CBD), CIVIC DISTRICT, MARINA BAY AND MARINA CENTRE [2023]